

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区教育ビジョン検討委員会（第3回）
事務局（担当課）		庶務課
開 催 日 時		平成30年11月9日（金）午後1時15分～午後3時
開 催 場 所		豊島区役所 教育委員会室（本庁舎8階）
議 題		1 次期計画の体系骨子案等について 2 その他
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	明石要一 秋田喜代美 壺内明 野間口雄三 守屋仁子 田中英治 松浦和代 高埜秀典 矢嶋篤子 武居裕子 和田健男 鶴岡清恵 倉本大資 城山佳胤 （敬称略）
	そ の 他	学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、教育センター長
	事 務 局	庶務課長、庶務課庶務担当係長（教育政策グループ）、同主事 コンサルタント

審 議 経 過

No. 1

- 1 開会
- 2 議事
- 3 閉会

<議事>

(1) 次期計画の体系骨子案等について

委員長：それでは本日の議事に入ります。

事務局：(資料に基づき説明)

委員長：全体の流れの中で、資料3と4はこのようなフレームになっているという説明をしていただきました。資料1と2はアンケートを踏まえたデータで、豊島区の強みと弱みをピックアップし、それをどのようなかたちで落とし込むかというものです。

今日は資料4のところで、重点的にみなさまのご意見をいただければと思っております。まず、今の説明についてご質問がありましたらお願いします。

野間口委員：重点課題が教育ビジョンの目次にそのままなる感じですか。重点課題はこのままなのですか。

事務局：こちらは事務局案というかたちで掲げたものでございます。これについても本日もご意見を頂戴したいと思います。

野間口委員：まだ決まっていないということですね。

委員長：5つの重点課題を掲げています。これはこれでよいのかといったご意見もいただきたいと思えます。それに基づいて資料4で施策の方向が挙がっております。その施策の方向で構成された体系が出てきております。「新ビジョンで想定する事業例」というものがないと議論しにくいので、赤い点線は今後考えられますといったものを挙げています。それを踏まえてご意見をいただきたいと思えます。

野間口委員：資料を見て率直に、複雑すぎると思いました。示した方向はいろいろと見ていかなければいけないと思いますが、もっと今問題としているところを大きく取り上げて、ここから豊島区はこのような教育ビジョンでいくのだとわかりやすく出したほうがよいと思えます。少し量が多いですし複雑でわかりにくいです。一般の人はもらっても大体読まないとは思いますが、読まなくても教育ビジョンはこのような方向でいくのだというメッセージ性やわかりやすさがないと、結局それが実現できたかどうかということもわかりにくくなってしまいます。実際にこれからみんなでやっていくというところの目標もうまく定まらな

と思います。全部大切だとは思いますが、今私たちが子どもたちのために、先生たちのために何ができるかというところで、もっと現実味を帯びたものがよいと思います。

委員長：シンプルイズベストですね。野間口委員から非常に貴重なご意見をいただきました。重点課題5つの中で、活字を大きくする、ポイントを置くなど焦点化したほうがよいのではないかというご指摘だと思います。

守屋委員：これは今あるものを改訂するのですよね。

事務局：5つについてご説明させていただきます。

重点課題1は学校教育の部分になります。重点課題2は就学前の教育の部分、重点課題3は家庭における教育、重点課題4は地域の教育、重点課題5はそういったすべてのもののベースとなっている生涯学習ということで5つの項目を挙げさせていただいております。

この中の文言で、「質の高い学校教育の推進」という表現がわかりにくいということであれば、この部分から当然変えていただくことは可能です。そこも踏まえてご議論いただきたいと思います。

守屋委員：文字を見ていると新しい言葉がたくさん入っていると思います。新ビジョンで想定する事業例のところなどで、「インクルーシブ教育」というのもありますが、これは特別支援学級につながってくると思います。豊島区としては、特別支援学級の位置づけはどのように捉えているのでしょうか。一人ひとりを大切にする教育というのを、わけた教育として考えるのか、同一型で考えていくのでしょうか。どのような考えで豊島区がこれを立てて入れたのかという部分を聞きたいと思います。文科省の立てた考えた通りなのか、豊島区独自で本来の共存していく側で考えていくのか、保護者としては大きな問題だと思います。

委員長：豊島区のインクルーシブの考え方は、文科省のいうことも含めますが、とりわけ豊島区は外国の方が多くいらっしゃいます。外国の方のことも含め、特別支援学級を要することは当然ですが、共生というキーワードの中でインクルーシブ教育をやっていきたいと思います。これは豊島区が一番大事なところだと思います。新宿区に続き、豊島区は外国人の方が多いです。文科省のいうインクルーシブは発達障害など特別支援を要する人が多いです。それプラス外国籍を持った方、多様な方を含めたインクルーシブ教育をやっていきたいというのがこの新ビジョンです。

守屋委員：それは同じ教室でということですか。

城山委員：委員長のおっしゃる通りですが、これは日本や世界が抱えている共通の問題だと思います。画一型教育から個性を尊重した教育というかたちで、個々の存在を認めた上でのシステムをどう考えるかということになります。ですから教室の中で一緒にできるものは一緒にやりますし、個人に必要なものでわけて指導

したり教育したりしたものがよい場合はわけたりします。いずれにしても、一緒にいるという前提の中で、個に応じた教育というものを試行しているのだと思っています。

委員長：他にいかがですか。

松浦委員：資料3の重点課題の「就学前教育の充実」のところで、(1)(2)(3)が掲げられております。(1)「質の高い幼児教育・保育の提供」で「質の高い」という表現が使われています。就学時前でしたら当たり前のことができるようにと思いますので、例えばあいさつや家庭で母親に教わったことがちゃんとできるということで、「豊かな心を育む」といった表現のほうが、幼児教育と保育の提供に当てはまると思いました。資料1のアンケート結果の「幼稚園保護者」中で、「子どものしつけ」や「豊かな心と人間性」というという言葉も出てきていますので、そのような表現がよいかと思いました。

委員長：ありがとうございました。

和田委員：資料3で「教育ビジョン 2015 における実施施策」が書いてあって、資料4で「新ビジョンで想定する事業例」があります。これはプラスされるということですか。そうではなく新ビジョンはこれでいくということなのでしょうか。

事務局：現行のビジョンの中ではわかりにくいのですが、施策や事務事業が複雑に入っています。手段も入っていますし考え方も入っているというのが現行のビジョンでございます。わかりにくいということで、新たなビジョンにおいては、施策は施策、それにつながる事務事業は事務事業ということでわかりやすく組み直したと理解いただければと思います。

和田委員：保護者アンケートの「小学生保護者・中学生保護者」で、前回教育長のあいさつにもあったように、豊島区の子どもたちの体力が平均から落ちているということでした。このアンケートでも、学校の体育の時間以外に外で遊んだり運動したりする頻度について、小学生で「ほとんどしていない」が1割半ば、中学生で3割半ばと出ています。実際、体力がついていないということなので、取り組み事業で体力向上というものを、どこに入るのかはわかりませんが、豊島区の弱い点だと思いますので入れていただきたいと思います。

事務局：施策として、(1)の①に「知・徳・体」を育む教育の推進ということで施策をお示しさせていただいております。それにつながる事業ということで体力向上という考えとなっております。現行ではすべての取り組み事業をこちらに記載しているわけではありませんので、今のようなご意見を頂戴できればと思います。

委員長：今のように具体的に豊島区の強いところと弱いところを想定していただき、強さを伸ばし、弱さを補うという視点で意見をいただければと思います。

和田委員：地域との連携の中で、防災においてずっと続いている取り組み事業がないということ。防災は継続があるから力になるのでその辺がないのはさびしいで

す。

事務局：重点課題4の(1)の中に「学校における防災教育」というかたちで加えさせていただきます。

委員長：体力と防災は非常に大事なことだと思います。

野間口委員：学校の働き方改革の分科会に出させていただきます、小中学校の現状も踏まえた上で意見をいわせていただきます。ここに書かれているのは大事なことです。委員さんがおっしゃったことも大事なことなので実現したいのですが、それを実際にやる先生や地域、保護者がいるわけです。そこにどのように働きかけていくのでしょうか。その部分を同時に考えていかないといけません。1回目の会議で宮澤先生がスクラップアンドビルド、捨てるものは捨てる方法を見つけられないとおっしゃいました。どちらかというと、この中からどれを減らしていくのかという視点も必要だと思います。減らしていく中で、補える項目をつくっていく方法のほうがわかりやすいと思います。「挑戦」も前は13の挑戦でしたが、13も挑戦したくないですね。

和田委員：防災は継続、体力は豊島区の弱みで、じゃあどうするのだというのは野間口さんがいわれた通りだと思います。先日オリパラの体験教室があり、マラソンの有名な金先生のお話を聞きました。最初は子どもたちも硬い表情でしたが、終わる頃はニコニコして目が輝いていました。楽しい運動の仕方、普段使わない筋肉を使い方など、いろいろな取り組みを1時間ずつ各3学年で時間を取って行いました。私は2年生の1時間を見させていただきました。体力向上として、体を動かすことが少ない豊島区の子どもたちが、学校の昼休みやちょっとした時間でできるのではないかとということで私が考えたのは、がん教育は豊島区の教育委員会で冊子をつくって進めましたよね。そのように事業に取り上げてもらえればよいと思います。教育委員会がブログなどをつくることにはできないでしょうか。削ることもよいと思いますが、弱みについては働きかける方向がよいと思います。

委員長：豊島区と千代田区というのは小さいなりに空間があり、大学をたくさん持っています。豊島区のよさはたくさんあります。大学との連携も挙げていますが、それを進路づけというか、連携してというならば、地域との連携・協働としてその辺でこの5年間は大学との結びつきを重点化するとよいのではないかと思います。

守屋委員：補足ですが、中学校は防災をやっているのですね。地域で活躍できる子どもたちでポンプが使えるようになるなど、表に立って出ていくようなことも実践しているのです。そこは特色としてちゃんと明記したほうがよいと思います。新たなものを入れましょうということではないというのが一つです。また、セーフコミュニティは子どもたちの安全を守るということと、中学生く

らいになると地域の人たちに求められている人材としてということで、意味合いが少し違ってきます。学校現場ではそういった授業が行われているので、そういったところは明記しながら位置づけると、文字だけではなく実際にやっているのか、やっていないのかわかります。いろいろと下りてきているけれど、人材をどのように見つけ出せばよいのかということですが、学校は次の授業というように追われています。通常授業ではないので、どのように実践していくかも含めながら。

副委員長：ここまでに、事務局がわかりやすく整理してくださったということは大変ありがたいと思っております。一方で、事務局のほうは事業を持たなければならないので、その整理やそういったかたちの体系図としてはわかりますが、シンプル化というときに、この目次もそうなのですが、基本理念と視点と重点課題が列挙されています。例えば（人づくり）と（つながりづくり）というのが並列になっていなくて、「就学前」があり「学校教育」があり「生涯学習」があり、そのすべてを家庭も地域も、それから地域の中に産業や大学やそういったものにつながっていきますといったイメージ図があるとよいです。シンプルに構造があるということをご一般の方がわかるように書いて、そのために重点の各部分についてはこのような体系でやりますというようなことが見えてくるほうがよいです。担当する人には自分たちはどこに関わるのかわかるのですが、区民のみなさんはこの細かなことの一つずつの前に、豊島区で何を大事にするのかという部分を一枚、構造図をお出しただけるとよいのではないかと思います。非常に重要なことを押さえてくださっていると思いますが、そこが並列に5つの課題が並んでいる辺りがわかりにくいのではないかと思います。

基本理念は今回初めて入れていただいているので、わからないところがあるのですが、これは変えられないのでしょうか。「人生100年時代を見据えた多様な力を育成する」とありますが、文部科学省で基本的に、力で語るというような競争的な意識から、どの人の資質や人柄も認め合って力を伸ばしていくという資質能力をすべて置いていると思います。そうではなく、豊島区は目に見える力を育てるのだというコンセプトであれば、それを議論すればよいと思います。

「多様な力」は何かわかりにくいですし、「人生100年時代」ということと、先ほど共生社会というお話もあったので、この辺りの基本理念というものがより明確にクリアに見えて、そのために子どもの時代に人づくりをし、それから地域の豊島区としての共生社会のつながりをつくるのだということが、もう少し見えてくるとよいと思います。豊島区らしさを、この理念、視点、課題という関係のところとうまく入れ込んでいけるとと思います。事業としてはこれだけ整理してくださっていることはすごく重要です。漏らすことのできないものだろうと思いますので、その辺りを少し調整していただけるとよいと思います。

また、「多様な力」という力主義ということ豊島区が重視されるのか、その辺りを伺いたと思います。どうして理念がここに出てきているのでしょうか。

「多様な力」というときに、それがどのようなものを指すのかわかりません。

委員長：2つご意見をいただきました。一つは、視点の「子どもの育ち（人づくり）」と「学びのつなぎ（つながりづくり）」を大きなフレームで説明してくれるとわかりやすいというご意見です。そうすると、人づくり、つながりづくりというのも、重点項目にストンと落ちるのではないのでしょうか。

事務局：今回はわかりやすく整備したいと思います。

副委員長：人づくり、つながりづくり、共生できる人材を育てる豊島区など、そういった見える化があるほうがよいと思いました。

委員長：キーワードとしては、人づくり、つながりづくり、それから共生づくりですね。文科省としては、最後に「まちづくり」があります。豊島区では共生社会づくりにし、そのように書き直すとよいかもしれません。

もう一つは「多様な力を育成する」の文言の出し方についてです。多様というのは非認知能力や認知能力を含め、資質も含めてあると思うので、短い方がストンと落ちると思ってこのような言葉になったと思います。基本理念についてご意見はありませんか。

野間口委員：確かに子どもたちに力をつけるということはあると思いますが、究極的に子どもたちにどうなってほしいかという、幸せになってほしいです。力があってもなくても、お金があってもなくても、幸せになればそれでよいと思います。ですから「力を育成する」というのは強い言い回しだと思いますが、子どもを育てるにおいては少し違う言葉がよいと思います。

和田委員：私も豊島区で生まれて60年が過ぎます。地域のことをいろいろやったりして最近思うことは、今の子どもたちに将来この豊島区を活性化するようなところが出てきてほしいです。そういった教育を目指してほしいと思っています。なるべく豊島区でずっと育てていただいて、豊島区で子どもを産んでいただいて、ある程度落ち着いたらそういった人たちが豊島区を活性化する担い手になってほしいです。そういったビジョンで表現ができたらと思います。

野間口委員：私は豊島区にきて5年ほどしかたっていないのですが、すごく豊島区を愛しています。外国人の方も含めて、みんなで豊島区を盛り上げていければよいと思います。

委員長：非常にシンプルに「人生100年時代を見据えた元気な子どもを育てる」はどうでしょうか。

城山委員：みなさんの意見はその通りですが、視点で注意していただきたいのが、子どもだけでよいのかということです。私ども教育委員会は学校教育に特化してきたという、ここ10年の歴史があります。子どもファーストで、子ども中心で何の

問題もないのですが、教育の守備範囲というのはもう少し広くてもよいのではないかという気もいたします。ですから、今回生涯学習も一旦は教育委員会から切り離しましたが、生涯学習ともっと連携して大人も子どもも育ちあい学び合うといったことが私たちの視野に入った上で子どもというものを議論していただければと思います。

委員長：学校教育は22歳で終わってしまいます。100年時代の4分の1しか視点がありません。後の4分の3をどうやって学びながら生きていくかという視点が大事になってくるということで、今回の場合も重点課題の5「生涯学習の推進」で学びなおしという視点もどこかに入れておかないといけません。

守屋委員：例えば、豊島区は月に1回土曜授業がありますよね。そのときに和田委員も授業を見ましたとおっしゃっていたのですが、割と地域に開かれていると思います。私たちはPTAなので、PTAに授業に参加しましょうと働きかけます。授業などを見ていると、大人が子どもの授業を見て学んでいるなと思います。そこにこないと学びがないので、そのための働きかけをPTAでしています。実際には開いているけれど、そんなにたくさんはきません。でも、特定の方にはきちんとしたお知らせがいつています。学校は地域連携と言いつながらも育成の方頼みで、そういった方たちが子どもと地域をつなげてくれて学校と地域連携というかたちになっている気がします。もっと本質的なところでは、学校は開かれた学びの場でもあるのだというメッセージがあると、区民が学校はそういった位置づけなのだということを理解し、開かれているときには参加して子どもの姿を見たりできます。育っているけれど、それをどう区民に示すかだと思います。

高埜委員：学校が外に出ないとダメですよ。地域で一つひとつのイベントがあります。それを学校は外側から見ているだけです。ところが、学校が先生と生徒とともに外に出て一緒に活動したときに、地域の人たちは学校の授業を見にいくのです。私は学校運営をやっているのですが、桜まつりなどがあると子どもたちがそこに参加してパレードに出るなどすると地域の人と一緒にやろうということで、授業参観も増えました。そういったこともすごく大切ですし、先ほどからもお話に出ていますように「目に見える力」というのはすごくよい言葉です。ただ力ということではなく、「目に見える」とひと言加えることですごくその言葉が柔らかくなる感じがします。ちょっとそのようにプラスしてくださるとありがたいと思います。

野間口委員：学校教育はこれから2030年に向けて開かれていくと思います。子どもたちが自立していく上で、社会との関わりを持ちながら成長しないといけません。そこが大きなキーワードです。そのために主体的で深い学びやカリキュラム・マネジメントという地域との協働も含めて、強化をこれからしていきます。子ど

もたちが常に地域の中で生きていて、地域の中でこれから 2030 年に向けて、学校に閉じこもってはいけないということは学校自体も痛切に感じております。この教育ビジョンを見て、人生 100 年時代とは政治の世界でもよく言われている大きな言葉なのですが、これがやはり子どもたちが生涯学習ということで、先ほど委員長からもお話のありました「学びなおし」は大切なことだと思います。やはり 40 歳になっても学びなおしができる人、おそらく今ある職業の半分がなくなる中で、生涯学習の視点も踏まえた子どもたちの育成は子どもたちに限定するものではなく、社会人も踏まえたビジョンがこの重点課題の 5 つにまとめられていると思います。事務局に感謝したいと思います。

倉本委員：「多様な力」のところについて考えていたのですが、子どもがいろいろな力をつけるべきなのか、その子ども個々で別の力を持っているのでその多様性を育てていくのかというところで、どちらだろうと思いました。私は後者のほうがもちろんよいと思っています。

鶴岡委員：いろいろな力をつけなければいけないのか、個々にあった力を成長させてあげるのか、そういったことで先ほど松浦委員が言ったような「豊かな」というようにするとよいと思います。

武居委員：多様な力って何だろうと思いますし、そこが理解できないかもしれないと思います。

また、重点課題の中で「質の高い学校教育の推進」とありますが、質が高いというのはどのようなことなのだろうかと思います。私は保育園ですが、保育のほうでも指導要領が変わるということで、今保育の質のガイドラインをつくっている状況です。私も参加させていただいています。保育の質を考えてガイドラインをつくらうということなのですが、先ほど方向のところにも「質の高い幼児教育・保育の提供」とあります。「質の高い学校教育」「質の高い幼児教育・保育の提供」とあるのですが、質の高いというのは何なのだろうと疑問を感じます。もっと違う言葉のほうがよいのかもしれない。国に沿って進められているので「質の高い」という言葉を使っているのかもしれませんが、もう少しわかりやすい言葉に変えるとよいと思います。幼児教育や保育に関しては、子どもが伸び伸びと育つだけではなく、地域との関わりや小さいときからの安全教育、高齢者の関わりなどひっくるめてやっていただいていると思います。違う言葉に変えると、これを見た方がわかりやすくなると思います。

矢島委員：私も「多様な力」のところで、多様とは何だろうと思いました。体力のことも伺いましたが、体が基本だと思うので「知・徳・体」のところに含まれているということだけではなく、もう少し力を入れてもよいのではないかと思います。なりたい自分になれる教育ができるとよいと思います。大人が決めたこのような子どもにしましょうではなく、それぞれが大人も含めて自分の夢を実現する力

をつけていくような豊島区だとうれしいと思います。

どれもが大切なことだと思いますが、何を優先するのがよくわかりませんので優先順位を知りたいです。

委員長：行政としてはなかなか難しいところだと思いますが、凹凸はつけていけないといけません。活字を大きくするなどの工夫は必要だと思います。

田中委員：先ほど学校は開かれているという話がありましたが、私は開かれているとは思っていません。連絡会で第4組集会室を使っています。そこが今建て替えて、委員長にどこを会場にしたらよいかと相談し、小学校が近いからそこがよいのではないかということでお話をさせていただきましたが、校長先生から子どもがいるからダメだと言われました。情けないです。地域の人たちが集まって区や地域のために活動しているところをなぜ子どもに見せられないのかと思います。見せるということは大事だと思います。

もう一つ、豊島区に文化財というものがあります。例えば長崎神社には獅子舞連というものがあります。先ほどお話があったように、みんな豊島区から離れていってしまいます。地方の場合はそのまちを守っていかなければいけないので出ていきません。豊島区の場合はやはり移動していってしまいます。せっかく子どもたちが獅子舞を習って、どこかに移動してしまい小さいときに習ったからといってもまちに戻ってくることはなかなかないと思います。豊島区には素晴らしい文化があるのに絶えていってしまう気がします。その辺の保存の仕方というのも、学校教育を通じて子どもたちに伝えていけたらと思います。

委員長：最初のお話は本当にごもつともだと思います。私も教師の再教育は必要だと思っております。オープンにすると助かるのにオープンにしない面もあり、自己反省もしております。非常にクローズな体質があります。そういった意味で、地域連携をもっとやっついていかないと先生方は開いてくれません。まず、校長先生が嫌がります。仕事が増えると思っております。なかなか難しいです。

田中委員：校長先生には何も迷惑がかからないと思います。ただドアを開けて空いている教室を貸すだけです。

高埜委員：それは校長先生の資質ですね。大歓迎する校長先生もいらっしゃいますし殻に閉じこもる校長先生もいらっしゃいます。

和田委員：地域は学校を待っているのですよ。それができない校長先生がいらっしゃるのには残念です。オープンにしている校長先生もいます。

高埜委員：運動会を見るとわかります。地域の人たちがお弁当を持ってくるのです。子どもがいるわけではない地域の方です。これはすごいことだと思います。

松浦委員：待っているだけではいけません。土曜公開講座をやっている所以我们たちから足を運び、顔を覚えてもらって関係を豊かにしていかなければ学校も開きません。私たちが近づいていく、寄り添うといったことをしていかなければ難しいと

思います。学校運営協議会があるのですが、そこに町会長さんも入っていただき、学校の考えと一緒にあって同じ方向で町会も動くということをこの5年間でやってまいりました。私の学校の地区は13町会あり、なかなか学校運営協議会に全地区の町会長さんを入れられないのですが、町会もこのように頑張ろうと言って、一つになったりしました。今回、体育館にエアコンが入っていないということで、お祭りのときにわざわざ校長先生が「すみません、お願いします」と寄り添ってくださり、町会長さんにあいさつをしたりされました。そういったところから連携ができていくと思いました。

委員長：ありがとうございました。学んでそしてどう実行するか、行動してそして学ぶ、そういった両方向が子どもも大人も大事です。子どもの学びと行動に着目するのですが、それも踏まえておいて23歳からの学びと行動があります。先ほども言われたように、PTA活動をすることによって新しい学びがあるというサイクルも考えていかないといけません。生涯学習情報データベース化で大学と連携し、大学の公開講座に出る、それを地域に貢献する、そういった仕組みづくりができないといけません。それができないと誰が担うのか、いろいろやってほしいけれど一部だけでは困るので、資格とまではいなくてもボランティアをする場合のスキルやフォローを学んでいくという、そういった学びなおしもうまくできないかと思います。教育機関も多いので、それが豊島区のよさになると思います。

もう一点は、ここには出ていませんが、先ほど10年後には職業が半分になりますと言われました。人工知能が導入されてきます。人口知能と戦ったら負けます。ですから人口知能と共存できる大人や子どもを育成しなければいけません。今の千代田区の中学校は経産省から補助金をもらって、中学生の算数の勉強の仕方を学んでいると聞きます。人工知能AIと共存できる学習の仕組みです。教師も強化指導というのは、10年後半分はAIができます。例えばいじめや不登校、集団の生活、就学旅行の引率や集団をどうつくるかなど、これはAIには難しいと思います。そういった視点をどこかに入れていきたいと思っています。千代田区、豊島区、港区から一つくらい出せないかなと思っています。

意見をいただきたいのは、理念がありますが、もう一つサブテーマとして何かこのような文言を入れれば区民がこのビジョンに関心を持っていただけるのではないか、やはり関心を持ってもらいたいですし、よいプランを出しても区民の方に読んでいただけないと困ります。よいキャッチコピーはないでしょうか。

副委員長：キャッチコピーになるかはわかりませんが、先ほどから「質の高い学校教育」「質の高い幼児教育・保育の提供」というお話が出ています。質が高いという理念には2つの方向があり、一つはどこの地域であっても一定以上の効果があったり、教えられて一定の水準が身に着くということで、幼児教育などは特に

認可がない保育所やいろいろなところがたくさん出てきているので、学校教育や公共の福祉であれば一定は保っていく「質の高い」という意味合いと、もう一つはそれだけでよいのかということが現在言われています。それはそれぞれの地域のよさです。択一性と専門的には言います。自分の地域、例えば豊島区の学校で育ったことが誇りに思えるとか、豊島区を誇りに思えるような教育や子どもを育てるということです。質が高いというときに、2つの方向があり、どこの区でもある「一定の学力は保障します」という質の高さだけではなく、豊島区の文化を理解できる、豊島区で育ったことを誇りに思える、そういった意味合いだということ、例えば「質の高い」というところに入れられないでしょうか。この重点目標のところ、単に「一般の学力テストが全国で何位です」とか、「高いです」ではなく、地域の文化的活動に参加したり、そこで忘れられない思い出がつかれるなど、そういったことを質の高さとして豊島区の教育を考えるのだといったビジョンがうまく出るとよいのではないかと思います。標準化されてこのようにやればよいという部分と、地域のよさを生かす、この両面がニュアンスとして入るほうがよいと思います。

野間口委員：A I時代を勝ちにいく子どもを育てるというサブタイトルではおもしろくないと思います。校長先生に、普通教科の授業が一番大切だと思いますが、それだけではなくいろいろな体験をさせてくださいとお願いしました。今の子どもたちは塾や習いごとに忙しいので地域に出てきません。でも今地域でこういったことをやっている子どもに声をかけてください、子どもにはいろいろな体験をさせてくださいとずっと言っています。子どもたちがいろいろな体験ができる小学校といったようなことをうまく表現できないでしょうか。質の高い教育もよいのですが、質プラス体験が大事です。

委員長：まさにおっしゃる通りです。学校は認知能力をつけますが、社会で育つと非認知能力が育ちます。豊島区の子どもたちは、認知能力は高いです。体力も含めて、動きをしながらするという非認知能力、知恵の部分が弱いだろうと思います。

守屋委員：今日は非常に勉強になりました。教育委員会の中で、全国順位をよく出します。順位にこだわるということを考えると、学校を休みがちの子どももいるし、どうやって点数を上げているのかなとか、何かわけて受けていて上げているのだろうかとか考えたりします。校長先生が変わると変わるのですが、「学力」と小学校からよく言われていていますが、体力からイコール知力のほうが自分で考えて体を動かすということでは大事だと思っています。「学力じゃありません」と言いながらも「学力」という言葉を先生が出していますし、教育委員会が同じように順位を出すということで、全国的な順位が上がることで豊島区の認知度、地名度が上がると思っている教育だったら残念だと思います。言葉が大事だろうと思います。

松浦委員：この人生 100 年時代の前に、「地域に根差した人生 100 年時代」はどうでしょうか。「根差す」とすると、ここで 100 年暮らせるかなという思いが出てくるのではないかと思います。私も豊島区で生まれて、自分の子どもたちにも同様に、この時代に豊島区に残ってほしいと思っています。いろいろな職について移動はするかもしれませんが、いずれはここに帰ってくるという感覚を持ってもらいたいと思いました。

委員長：よい言葉としては「千里を照らして一隅を守る」ですね。要するに世界を見据えた視点を持って、豊島を一隅として守るという意味です。校長先生が卒業式に言う言葉ですね。

先ほど矢島委員がおっしゃった「なりたい自分になれる子ども」というのは、親としては最高によいですね。これは教育委員会としてはハードルが高いですね。

和田委員：豊島区の学校の教育には、児童の信念というものがあります。これは有名です。

委員長：私個人は脱線しますが、食べっぷりがよい人、遊びっぷりがよい人、つき合いっぷりがよい人、この 3 つの「ぷり」がつくと親が死んでも生きていけます。学校教育だけでは難しいです。

野間口委員：生涯教育として大学との連携という話がありました。子どもたちは体力という部分でも、すごい資質を持っています。高校もそうです。広いグラウンドがあります。連携すると、いろいろな問題は緩和されるのではないかと思います。一つは P T A で毎年、学習院のソフトボール大会があります。非常に交流があり、今の大学生の学習院の子たちですが、とてもしっかりしていますし、逆に子どもたちから影響を受けます。生涯学習も含めた大学との連携で子どもたちも体力強化ができると思います。中学生では校庭は部活をやっている使えませんし、公園も使えない、じゃあどこで遊ぶかというところの中しかありません。そういった意味でも、サークル活動に中学生から参加できるという豊島区ならではのつながりができると思います。

守屋委員：働き方改革にもつながってくると思います。今教員になる人が少ないと言われてますよね。仕事の量が多すぎて子どもたちにまい進できません。おっしゃっている、もっと支援ができませんかというのは、シンプルに子どもたちのことを考えたビジョンであってほしいです。学生たちが学校に足を運んで、例えば放課後の授業のサポートや夏休みを見越した子どもたちの学習支援で、それが教育にある子たちのためになったり、豊島区で自分たちが活躍できる場として、それがボランティアなのか学習支援をして少しでもお金が稼げるというところかもわかりませんが、その連携の中で部活、学習面だったりというのは人材をつくっていくことと、地域に結びついていると思います。働き方をどうすればよいのかというところでは、お金がない、人材がないというところに入

てきてしまいます。けれど、教育の中と今つながってくるなど思ったのは、地域のそういった若者たちではないでしょうか。

委員長：他に、豊島区の特徴についてご意見をいただければと思います。

高埜委員：豊島区の中に大学が6つあります。区自体は各大学とのつき合いを密にしています。それを活用していく部分があります。例えば女子栄養大学もそこに入りますが、女子栄養大学は食育です。豊島区の学校関係です。これは豊島区の職員のみなさんはみんな知っていますよね。そこを全部使っていくことです。先ほどお話のあった小学校のソフトボールも学習院のグラウンドを使っています。もう何十年にもなります。結局は場所がなかったから学習院にお願いしたのが立ち上げです。これがようやく見えてきています。見えてき出しているのです、その活用もすごく大切です。

副委員長：先ほどの見える化のところ、何か見えるとよいですね。具体的に6大学というだけではなく、その6大学をここで生かしてネットワークをつくるということがあるとよいです。

高埜委員：先ほど和田委員が言われましたが、金さんはマラソンのすごい方です。その人が豊島区の小学校にきてくれるということ自体がすごいです。大学は陸上部がたくさんあるわけですから、そういったものも活用できると思います。

委員長：千代田区の麴町中学校の近くには有名なホテルがあります。ホテルの料理長が食事のことで外部からきてやってくれます。豊島区にも有名なホテルがあります。要するに言いたいのは、地域の人材と交流していくということです。そうすると学校も開かれていくと思います。

松浦委員：もう1点が、放課後子ども教室の運営は豊島区の地域の人で運営されているので、他にはないことです。教室を開いても、地域のおじさん、おばさんがきてくださり子どもたちと接しています。ですから道で会ってもあいさつができるというのが特徴ですね。

委員長：そうしたときに、放課後子ども教室を担う人の新しい研修、学びの場がほしいです。そういったことをすると、面白いから子どもも集まってきます。最初は集まってくるのですが、スタッフの方がマンネリ化すると潮が引くように去っていきます。ですから、大学とも連携しながら研修していき、新しい学びでまた実践するという流れが必要です。その繰り返しをやっていかないと、これからの世代は難しいのではないかと思います。

松浦委員：大正大学の方は子ども福祉に興味を持っていらっしゃいます。スキップで開催するお祭りにも大正大学の方が一手に引き受けてくださって、そこで私たちが学んだことを区民広場で生かしたり、放課後子ども教室でやらせていただいています。本当にありがたいと思っています。

倉本委員：教育的にアニメや漫画はどうですか。

城山委員：直接的な関わりはわかりませんが、教材に使われたり、いろいろなツールで漫画は活用されています。漫画に特化した教育目的というものはなくても、日常的に親しんで環境の一部にしているというのが豊島区の目指しているところではないでしょうか。

倉本委員：子どもを引きつけるのではないかと思いました。

高埜委員：東アジア文化都市としてその理念はでき上がっています。初めて公開されましたが、そういったものが見えてきているというかたちですね。

委員長：今日の新聞で、ふるさと納税で「ときわ荘」の復元に9千万円集まったということでした。3万円出すと名前が載るそうです。豊島区というのは非常に文化的な豊かなまちです。多文化や共生な文化的な面、学校教育だけではなく例えば地域の交流などが紹介できればよいと思っています。

矢島委員：公園の数は区内23区でも最低レベルです。子どもが自由に安全に遊べる場所がない、だから体力がないのだと思います。保育園もそうですね。

武居委員：区の方でも小学校との連携は考えていただいています。ただ、月1回くらいです。毎日のようにいって遊べるとよいのですが、授業があるので放課後にコーナー的に遊ばせていただけるとよいと思います。前向きにお話をいただいて、公園もきれいに整備されています。小学校も貸していただけるように、徐々に校長先生のほうにも許可をいただいてどんどん増えてきています。ただ、狭いということで、豊島区にもともとそのスペースがないです。大学といったお話が出ていましたが、中学、高校、大学といったところも少し貸していただけるような感じでもっと広がっていくと、小さいお子さんが安全に遊べるようになると思います。

ついでにお話をさせていただきますが、学校教育の中で自然体験といったものを区のほうでカットされましたよね。体験や経験ということで、移動教室など少しカットされたときがあった気がします。思うように学校側のほうも、そういった場所にいけない、お借りできないといったことがありました。お金が絡む部分だとは思いますが、幼児教育のときから経験や体験というのはものすごく大事に育てていかないと、AIに負けてしまう子どもになってしまいます。知能はもう絶対に上をいかれてしまうと思いますが、違うところで考えて自分たち何かをできるような子どもたちを育てていかないと負けてしまうのではないかという不安な部分があります。AI自体は素晴らしいと思います。学校の先生や保育園の保育士さんにも、一定ライン以上の質の高い教育が提供できるように研修も必要だと思うのですが、AIができることは生身の人間もできて当たり前でないと、小さい子どもたちにも対応できなくなってしまうのではないかと思います。AIに負けるような子どもには育てたくないと思います。その子なりのその子らしさを持ったお子さんに育つようにしてあげられると豊島

区の教育がもっと世の中に浸透して、豊島区が大好きで子どもも大人になっても豊島区が大好きだと思って地域に戻ってこられるようになるとういと思いません。

委員長：「長生きできるまち」というのがあります。健康寿命が多い県と短い県で3歳違うそうです。一つのヒントは近くに公園がある人ほど健康寿命が延びると言います。運動できるということですね。豊島区で健康寿命を延ばすためには公園の再活用と小学校、中学校、高校、大学の有効活用だと思います。ハンディがあるけれどそれをチャンスにして持っていくということで、健康寿命という視点を置いておくことも必要かなと思いました。

副委員長：今のお話を伺ってつけ加えると、OECDがエディケーション2030と言いはじめました。最近新しく何が議論されているかということ、国際学力テストで一番聞くのが体力、運動、フィジカルエディケーションというところが意欲など、結局そういうものを一番予測するのではないか、従来そういった調査を国際的にやってきていないので、読み書きソロバンのものの重要性が言われています。今着目されているのは、まさにみなさんも言われた体力のところですね。そういったものをやはり豊島区として入れていただくとよいと思います。グローバルな教育という話があるのですが、グローバル化と言うとすぐに英語とICT教育というのが言われがちで誤解がありやすいと思います。特に乳幼児期から大事なものは地球市民として環境を大事に思うことです。環境というのは、自然を愛する、生物多様性ということで生き物と命を与えられ、私たちも命を支えて生きているという感覚を自然とともに、国を超えて大事にしていかないと、結局環境汚染などいろいろなことが起こるだろうと言われています。英語とICTをやればグローバル化対応となりがちなのですが、ここではグローバル化という中に例えば体力的なものや自然環境といったものも豊島区では大事に入れていただくとよいと思います。限られた中でもいろいろな生物と一緒に暮らしたり、限られた緑地でも大事にできる子どもなど、そういったことが大事だと思います。まとめにはなりません、豊島区の持つイメージをうまく生かしていければよいと思います。

委員長：時間も迫ってまいりました。委員のみなさまから貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。本日いただいたご意見を踏まえまして、事務局と相談をさせていただき修正版をつくっていきたいと思います。これを持ちまして議事を終了します。

(2) その他

委員長：事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

事務局：(連絡事項)

3 閉会

<p>提出された資料等</p>	<p>資料 1 関連計画等を踏まえた地域特性分析（SWOT分析）</p> <p>資料 2 豊島区の地域特性及び基礎調査を踏まえた豊島区教育ビジョンの重点課題</p> <p>資料 3 豊島区教育ビジョンの体系（案）（現行ビジョンとの対比版）</p> <p>資料 4 豊島区教育ビジョンの体系（案）（新ビジョン事業例示版）</p> <p>参考資料 1 「豊島区教育ビジョン」の目次（案）</p> <p>参考資料 2 「教育都市としま」 13の挑戦</p> <p>別紙資料 「豊島区教育ビジョン 2015 豊島区教育振興基本計画」策定に係るアンケート調査 調査結果報告書（案）</p>
-----------------	---